令和７年度　幼児教育研修（年齢別担任研修０歳児・第３回）
「子どもの発達と保育者の関わりについて」
日時：令和７年１０月１日（水）１５：００～１７：００
会場：足立区生涯学習センター
講師：相模女子大学　教授　　金元　あゆみ　氏

第二回受講者アンケートより

受講生より

大人の『ねばならない』という考えではなく、横並びのまなざしの大切さを学んだ。

子どもがどんなものでどんな風に遊んでいるのか、その都度子どもに問いかけながら寄り添っていく必要があると気付いた。

子どもたちの視点も大事だが大人側の視点を意識化することも大事である。正解探しではなく「面白いね」という捉え方をすると良い。語り合うことで他者の思いを引き出していく。他者と見え方を交し合うことで、子ども理解が深まっていく。

講師より

DVDから

０歳児の滉太が空き缶で遊んでいる。手首を返して缶を転がしたり、床に打ち付けて音を鳴らしたりしていろいろな遊び方を試している。時々保育者の方を見て笑顔を向け、また夢中になって転がすことを楽しんでいた。保育者も滉太の思いを代弁しながら温かく見守っていた。

ー新宿スタジオ『乳幼児へのまなざし第１巻』ー

横並びのまなざしで、子どもの世界ととことん対話し、他者と見え方を交し合いながら、可視化する

・付箋の色、大きさで分けてマップを作る

子どもの姿
横並びのまなざしで、心にとまった姿に着目

子どもの心の動き
子どもの姿から読み取った子どもの気持ち

環境・関わり
子どもの問いかけを支える物・人・環境に着目

気づき・疑問・提案等
・受講生の感じたこと
・気付いたこと

・第三者に伝えたい滉太君の世界、大切にしたい視点　・育ちとのつながり（保育指針等）は付箋（大）に記入

マップの例
※付箋内は受講生による記入例

子どもは何を感じている？

子どもの姿
缶をひっくり返して感触や音が出ることを楽しんでいる

空き缶への興味

子どもの心の動き
ぐるぐる回って楽しいな！いろいろな音がする！

子どもの心の動き
僕のお気に入りの缶があった！
また回したい！

環境
いつでも遊べるように手の届くところに素材がある

物の反応・動き
固い床と畳で音や回り方が違う

子どもの心の動き
・大きい音が出てびっくり！
・もう一回やってみようかな？

子どもの姿
転がしたり、掴んだりした時に、保育者に笑顔を向けて、喃語でアピールしている

環境
他の友達に邪魔されず一人で熱中できる環境

関わり
保育者は子どもが感じたであろうことを言葉で代弁している

こんなことを取り入れてみたい！大切にしたい。これはどうなんだろう？

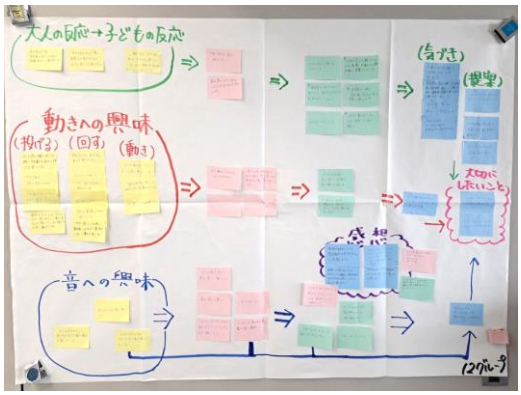
気づき・疑問
・子どもにとっては、手に取るもの全てが発見やおもちゃになる。
・同じクラスの他の子どもの反応はどうかな？

大切にしたい視点
保育者との信頼関係があるからこそ、安心して遊び込め、満足できている

どんな風に、どうしている？
心が姿に表れているので子どもの目線に入り込みながら心に留まった姿、惹きつけられた姿を記入

フラットな気持ちで見えてきた「よさ」を中心に、子どもの世界を書き出してみましょう

やってみよう！ グループで話し合いながらマップを作ってみました

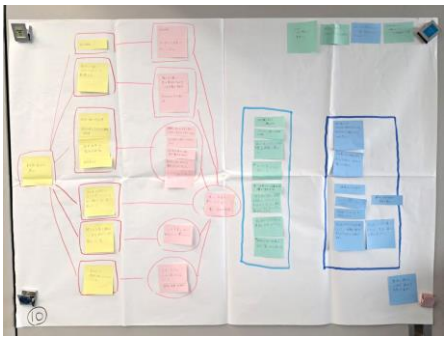


・付箋を配置する。
・カテゴリーを線で囲んだり、付箋同士の関係を線や矢印で繋げる。
・吹き出しやキーワードを書き加えてもよい。
・付箋の配置は自由。捉え方は一つではない。
・複数の見方も大切にしたい。

様々な視点や考え方があると感じました。

その子どもの思いについて伝えたり、夢中になっていることやおもしろさを共感することは、AIではなかなかできない、保育者の特殊な能力なのだと思いました。

可視化することでいろいろな捉え方・見方・接し方を保育者間で共有しやすく、より良い子どもの育ちにつながっていく事を学びました。



・3か月同じ遊びが続くほどの子どもの集中や、興味の世界を支えているのは何かを考える。
・いつもの姿、興味を支えているものは何だろうと思うことが大事である。
・どういう要素が支えになっているかを書き出す・語り合うことで、正解は分からないけれど、「こうかな？」というものが見えてきて、今の保育が変わる。→明日の姿が変わってくる。その繰り返しをしていくことが大切である。
・0歳児は大人から見ると未熟でどう関わればよいか分からないと思われることがあるが、0歳児なりに主体的に自分の世界を知ろうとしている。その面白さに気づいてくれる人が側にいて、寄り添って代弁してくれる心地よさが、さらに外への世界へ歩みだす土台になる。

保育者は子どもの世界の代弁者

0歳児は未熟な存在と捉えられがちです。実際に、様々な面で大人の援助を必要としています。しかし、人は生まれながらにして、自分が生きている世界の面白さを主体的に知ろうとする存在です。

時には、子どもの感じる面白さが、大人の目では理解されにくいこともあります。保育者は子どもが感じている面白さに気付き、ともにし、その世界の在りようや意味を代弁してくれる唯一の専門家です。

そうした存在がそばにいることで、子どもの「心地よさの経験」は深まり、自分や人への信頼感に力を得ながら外の世界に歩み出していきます。

ぜひ、今後も「横並びのまなざし」で子どもが生きている世界との対話を深めていただけると幸いです。

受講生の報告書より

子どもが発見した遊びや楽しさは、保育者が意図していないものだとしても共感することで、見える世界が変わると感じた。子ども発信で玩具の用途が違った時にも、保育者が一度立ち止まり、どうしてその遊びをしようと思ったのかを感じ取り、共感し、一緒に遊び込んでみることの大切さを感じたので、危険が生じる様な場合でない限り、見守る保育の大切さを改めて感じた。子どもが集中して遊び込んでいる時に、ついつい声かけをしがちだが、必要以上の言葉がけをしないことで、0歳児でも遊びの世界に入り込み、長い時間遊べるのだと感じた。

自園は可視化する事に不慣れで言語化することでかしこまってしまい、なかなかうまく取り入れていなかったので、まずは日々の保育の中で子どもの遊びや行動に心打たれた場面や出来ごとに焦点を当て書き出し、そこから子どもの心の動きや保育者の関わり・関わりの中での変化などできることから取り入れ可視化し保育者間で見え方を交わしながら子どもたちの育ちに繋げていきたい。